

<平成20年度版>

社団法人 日本ツーバイフォー建築協会

# 環境行動計画

策 定：平成 16年 3月 25日

適 用：平成 16年 4月 1日

一部改定：平成 17年 4月 1日

一部改定：平成 18年 4月 1日

一部改定：平成 19年 4月 1日

改 定：平成 20年 4月 1日

# 社団法人日本ツーバイフォー建築協会

## 環境行動計画 平成 20 年度版

はじめに

社団法人日本ツーバイフォー建築協会では、平成 16 年度に協会会員が一致して取り組む「環境行動計画」を定め、具体的な活動を始めてから 4 年を経過しました。この間、温室効果ガスの削減目標を定めた京都議定書の発効、住宅は量の確保から質の向上を図り、世代を超えて住み継がれる「社会的資産」であるべきであり、良質な長期的優良住宅のストック形成は住宅産業の社会的役割と位置づけられた住生活基本法の制定、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第 4 次報告書の発表等により我々を取り巻く環境問題が大きく取り上げられるようになってきました。企業活動の基盤として環境問題に取り組み、環境対策を実施していくことが持続可能な循環型社会の構築へ寄与すると共に、各企業にとっても社会的責任の重責を果たす事にもなります。

北米で生まれたツーバイフォー工法は、日本では一般工法として昭和 49 年にオープン化され、省エネルギー性、耐震性、耐火性、耐久性などの優れた基本性能により市場において優位性を保持しています。平成 19 年に（社）日本ツーバイフォー建築協会の「ツーバイフォー中期行動計画」が策定され、今後さらに市場動向に応じたツーバイフォー住宅の優位性をアピールし、長期的な視野に立って時代の波を乗り越えていくことが求められています。

この度の改定は、こうした社会の環境を背景に具体的活動と今後更に深刻化するであろう環境問題を、これまで実施してきた環境行動計画のアンケート結果及び、ツーバイフォー中期行動計画を基に再検討を行ったものです。

「①温暖化対策の目標②廃棄物対策の目標③環境配慮の目標」の三本柱を軸として従来の行動計画の見直しを行い、より具体的な目標を明確にした内容になりました。

今回の環境行動計画は第 5 版となりますが、我々一人ひとりの生活様式や企業活動に起因する環境問題に会員一丸となって取り組み、持続可能な社会構築に寄与する一助となることが期待されています。

# 環境行動計画

- ・「2008年度各社の目標」は、自社の目標に照らし、選択項目から目標を選択して実践する。  
( ) %は目標数値を記入し実践する。
- ・目標を実践するにあたり、参考として協会の目標と2007年度アンケート調査結果を掲載した。

## 1. 温暖化対策の目標

### 1) 省エネルギー化の推進

行動計画	2008年度 各社の目標	2010年度 協会の目標	<参考>2007年度における アンケート調査結果
<b>①「次世代省エネルギー基準」をクリアした住宅の普及拡大</b>			
「次世代省エネ」住宅を供給する	<input type="checkbox"/> 供給する <input type="checkbox"/> 検討する	100%の会員 会社が供給 実績を持つ	「次世代省エネ」住宅を供給した実績のある会員は50%。 戸建て住宅の供給総戸数に対する「次世代省エネ」住宅の割合は57%。
自社で供給する戸建て住宅のうち「次世代省エネ」住宅の割合を向上させる	( )%	60%	
<b>②高効率給湯器(エコキュート、エコジョーズなど)を導入した住宅の普及拡大</b>			
高効率給湯器を導入した住宅を供給する	<input type="checkbox"/> 供給する <input type="checkbox"/> 検討する	100%の会員 会社が供給 実績を持つ	高効率給湯器を導入した住宅を供給した実績のある会員は70%。 戸建て住宅の供給総戸数に対する「高効率給湯器導入」住宅の割合は36%。
自社で供給する戸建て住宅のうち「高効率給湯器導入」住宅の割合を向上させる	( )%	50%	

### 2) 建設段階におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた活動の推進

行動計画	2008年度 各社の目標	2010年度 協会の目標	<参考>2007年度における アンケート調査結果
<b>①建設現場におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減に努める</b>			
建設現場における資材搬入車両、職方移動車両の削減に取り組み、エコドライブ(アイドリングストップなど)を実践する	<input type="checkbox"/> 供給する <input type="checkbox"/> 検討する	100%の会員 会社を取り 組む	建設現場でのCO <sub>2</sub> 削減に結びつく行動として、「現場施工時のCO <sub>2</sub> 排出量削減の取り組みをしている」29%。「物流時のCO <sub>2</sub> 排出量削減の取り組みをしている」24%があげられる。
<b>②住宅の長寿命化を積極的に促進する</b>			
性能表示制度に定める「劣化対策」「維持管理対策」の最高等級に相当する住宅を供給する	<input type="checkbox"/> 供給する <input type="checkbox"/> 検討する	60%の会員 会社が供給 実績をもつ	「劣化対策、維持管理対策」の最高等級の住宅を供給23%。最高等級を「標準仕様」にしている17%。

## 2. 廃棄物対策の目標

行動計画	2008年度 各社の目標	2010年度 協会の目標	<参考>2007年度における アンケート調査結果
3R<リデュース(発生抑制・長寿命化)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化・再生利用)> の推進により廃棄物発生量を削減する			
分別ルールを作成して積極的に リサイクル、リユースの推進に取 り組む	<input type="checkbox"/> 供給する <input type="checkbox"/> 検討する	100%の会員 会社を取り 組む	「自社の建物仕様に対応し た分別排出ルールを作成し ている」44%。
リデュースを推進させるため部 資材の簡易梱包、コンポーネン ト化、パネル化に積極的に取り組む	<input type="checkbox"/> 供給する <input type="checkbox"/> 検討する	100%の会員 会社を取り 組む	「部資材の簡易梱包を推進 している」34%、「部資材の コンポーネント化やパネル 化を導入している」53%

## 3. 環境配慮の目標

行動計画	2008年度 各社の目標	2010年度 協会の目標	<参考>2007年度における アンケート調査結果
環境に配慮した経営方針を導入し実践していく			
環境行動計画として環境マネー ジメントの仕組みを導入して取 り組む	<input type="checkbox"/> 供給する <input type="checkbox"/> 検討する	100%の会員 会社を取り 組む	「本社、支店でCO2排出 量削減の取り組みをしてい る」36%。「CO2排出量削 減目標値を決めている」 10%。
環境関連法規の動きを常にチェ ックし、その情報を共有化して各 現場で検証に取り組む	<input type="checkbox"/> 取り組む	100%の会員 会社を取り 組む	「関連法規の遵守状況を定 期的にチェックしている」 26%。環境関連「情報共有 化のために勉強会、研修を 行っている」19%。